

令和8年度 NHK 大河ドラマ「大友宗麟」誘致推進協議会 全体会議(総会)議事録

日 時／令和8年 5 月 20 日(水)14:40～15:30

会 場／大分市コンパルホール 305

【出席者】わさだ新都心協議会会長足立義弘顧問。大河ドラマ推進協議会牧達夫会長、々佐藤副会長兼事務局長、々若杉副会長。大分県から江藤典幸芸術文化振興課主幹(総括)、柴崎香那芸術文化企画班・学芸員。大分市から教育委員会坪根伸也文化財課専門官、観光課水野寿担当班参事補、磯村拓海担当班主事、観光協会幸野宏樹事務局長。臼杵市は産業観光課森本英樹、佐世善之。津久見商工会議所石堂克己専務。豊後大野市は甲斐久満商工観光課事務局長。大分経済同友会後藤富一郎代表幹事、朝日警備保障会長矢羽田光理事、佐伯コミュニケーション会長平岩監事。事務局から藤田賢治事務局次長、植木直正顕彰会監事、オブザーバー／江藤孝文顕彰会理事、田北雅一顕彰会会員、以上 21 名。

なお本日欠席の津久見市・竹田市・豊後高田市・別府市から欠席届(委任状)提出受理。お断り:先日誤ってメール受信を全部削除、ほかにも欠席届が出ていたはずですが銘記できません。お詫びいたします。※敬称略

司会(藤田賢治)／先ほどNPO法人大友氏顕彰会の理事会と通常総会が終了、引き続き推進協議会の全体会議(総会)を開催。最初に牧達夫会長のあいさつ。

牧／この会は大分県はじめ大分・別府・臼杵・津久見・豊後大野・竹田・豊後高田、そして商工会議所、一般企業とまさに官民一体の組織、今後もより一層広く強化していくつもりだ。

令和 7 年度の活動報告 (以下詳細は総会資料参照)

1 頁めに 7 項目ほど記しているのを読み上げた。以下に項目と要約を記す。

(1)宗麟公生誕 500 年に向けて。この総会資料の記述よりかなり進展があった。知事他の関係者とは素案では一致している。即ち「ヨーロッパに存する宗麟の絵画の巡回展示」、「大友氏にゆかりある全国各地の関係者を招いての討論会」など、後述。

(2)大友氏顕彰フォーラム、大分と国東の開催報告。大分でのテーマはアルメイダ生誕500年「アルメイダの生涯」として牧会長自身が講師を務めた。入場者数が両会場とも100名を切ったのは初めて、原因の分析は必要だが「継続こそ力なり」、8年度も実施するが大分開催のみとする。なお、同時に牧会長が自費出版した『アルメイダの生涯』を両会場で販売、非常に簡潔にまとめてあり、分かりやすいとの評価を得た。推進協議会から6万円補助し、その代わり売り上げは協議会の収入とした。

(3)宗麟公439回忌供養祭について。

一昨年から石川津久見市長の参列、今回も参列された。臼杵市も行政や商工会議所などの参列が常態化しており恒例化してきた。合同新聞社の記事の効果も大きい。

(4)会員拡充と協議会活動強化について。3項目挙げているが特に2項目は次の(5)と連動する。こ

れが推進協議会にとって重要課題。

(5)大友氏ゆかりの市町村、政財界、文化人との連携・交流をしているが、より一層広げ深めることが重要だ。現在柳川市の立花宗茂の大河ドラマ化活動とも協力し合う態勢が整ってきた。8年度は同一行動する。歴史ファンなら立花氏(宗茂)が大友一族であり重臣だったのは周知のこと。

(6)NHK への大河ドラマ要請活動。今年2月、佐藤大分県知事、西岡臼杵市長、石川津久見市長と同一行動が実現した。NHK 側の「戦国時代の九州はおもしろいですね」との反応に意を強くした。

(7)顕彰会の研修バス旅行。7年度は柳川の御花と八女黒木町の五条邸。二つとも豊後外で最も大友氏と縁が深い。今後この研修バス旅行については推進協メンバーの参加(毎年呼び掛けているが)も望みたい。

牧達夫会長単独活動

総会資料に列挙した項目は42。うち23項目は純粋に推進協議会活動。19項目は地域活動と老人クラブ全国活動で、その半分は大友氏の PR である。

事務局役員活動

若杉副会長は7項目、佐藤副会長は6項目だが、うち2項目は他団体の例会担当で年間約20回の活動実績を残す。11月には新規イベント「府内の町・文化フェス」を主催(ほぼ単独)した。藤田事務局次長は大分市文化財課と観光課のボランティアガイドのメンバーとして毎月数回、年間3～40回の実績を残している。

決算報告

藤田賢治会計担当が資料を基に説明、収入は全額会費に負う。入金一覧表、収支一覧表、支出積算根拠一覧表と3ページにわたり表記にしたがって読み上げた。当初予算から冊子売り上げほか雑収入で数万円増加、しかし支出はそれ以上に増え、繰越金が前年度よりも減少した。全国展開を図るため各地の県人会の出張費が増えたことによる。続いて平岩禎一郎監事が監査報告した。

8年度活動計画

牧会長／一応資料に挙げているがあくまでも予定、変更は十分にあり得る。自分一人の行動はともかく、複数人(超多忙な首長たち)での行動はスケジュール調整に苦勞する。まず直近の予定から。

6月5日、福岡県人会出席

6月12日、柳川市長を訪問、今後の統一活動の方針を協議する

7月25日、神奈川大分県人会60周年記念行事に出席、大いにPRする

9月4日、福岡県知事を柳川市長とともに訪問、大分県・市との共同戦線をいかにするかを話し合う

9月29・30日、宮城県名取市を訪問、これについては若杉副会長から説明

若杉／昨年、我々の活動を知った名取市出身(東京在住)の大友さんから連絡があり、宮城県の大家姓は義統公の子孫だという。さっそく入会してもらいメール交信を続けている。※今日の配布資料、顕彰会の会報「おおとも73号」に掲載、参照。大友姓は関東以北に3万人以上存在するという。全国展開するには東北地方の大友さんと協力していく事が重要だとの認識にたつ。直接会って懇親を

深めたい。その際マスコミへの対応が欠かせず、全国ネットのTV局、新聞社、ケーブルテレビなどに相談・情報発信することが当面の仕事である。

牧／そのようなことで次にNHK訪問時にはこれを強調して、大友氏関連(立花宗茂など)の大河ドラマの視聴は全国規模だと訴えるつもりだ。

次に恒例のフォーラムは11月14日、今年は大分開催のみ。テーマは「大友氏の顕彰の足跡をたどる」。坪根伸也氏による講演を予定。現在当顕彰会のほか、数団体が大友氏の歴史を研究しているが「顕彰活動」に特化しているのは我われのみ。しかし歴史を紐解けば、実は江戸時代から大友氏の研究・顕彰は行われてきた。その足跡をたどり百数十年以上の顕彰活動も継続性が重要だと訴えたい。次の研修バス旅行の説明は若杉副会長より。

若杉／今年「日向高城川合戦跡と高城跡、その戦没者の供養祭に参列」を企画。11月12日がその日である。宮崎の民間団体と商工会議所主催だが木城町・川南町が協力、また山香町の「鎮周会」が40年ほど前から参列、自分もその一員である。顕彰会の第1回目の研修バス旅行は15年前につき現会員の6、7割は初となるのでぜひ多くの参加を期待する。

また、10月発行予定の『大友氏の風景(14)』の表紙に使用する宗麟画像を紹介したい。総会資料に2点ほど掲載したが、原画1点描けばAIによりさまざまなバリエーションが可能だということで、2030年まで5年間、毎年変化していく宗麟画像をみせたい。

佐藤／次に推進協議会活動の歩み・2013年に発足以来13年間の表を作成・説明。大河ドラマの放送パターンを見ると3、4年ごとに戦国時代を取り上げている。そのパターンで行くと2030年の実現性が高い。現に今年になって宗麟を取り上げる番組が増えてきたようだ。先日の「宗麟の勝負飯」、NHKEテレ6月9日(火)10:00～「知恵泉」で取り上げる。またBS11でも宗麟が放送された。今後のマスコミの報道・番組にご注目してほしい。

藤田／8年度の予算案を資料に基づき説明。ほとんどは前期に準じるが、今年は宮城県名取市への出張費が目立つ。予算的にはフォーラムが大分のみで地方分の予算が充当できる。

若杉／二重振り込みがあったので当事者には伝え、この場でも報告した。

牧／質問がなければ以上で終了。最後に宗麟公生誕500年の2030年の記念イベントは5月の最終土曜日に「フォーラム」を予定、その際ヨーロッパに存在する宗麟の絵画数点を借りてきて展示する。展示会場は数か所を考えている。フォーラムは大分県内のメンバーの首長、また柳川市長や福岡県知事にも出席を呼びかけたい。イベント内容については腹案(各首長それぞれの宗麟に対する思いやエッセー募集など)はあるが発表は役員と打ち合わせてまたの機会にしたい。それらの実行委員会を8月中くらいに立ち上げたい。

若杉／最後に、総会資料のほかに会報73号を入れている。宮城県名取市の大友直樹氏の資料を掲載しているので是非目を通していただきたい。本日はお疲れさまでした。

6月3日 記録者／若杉孝宏(事務局)